

STOP TOKYO OLYMPICS
人々の命と暮らしを守るために
東京五輪の開催中止を求めます
署名用紙



人々の命と暮らしを守るために、東京五輪の開催中止を求めます

呼びかけ

宇都宮けんじ
KENJI UTSUNOMIYA



オンライン署名 : <https://utsunomiyakenji.jp/stoptokyoolympic/>

【提出先】

国際オリンピック委員会 (IOC) トーマス・バッハ会長、国際パラリンピック委員会 (IPC) アンドリュー・パーソンズ会長、菅義偉首相、丸川珠代五輪相、小池百合子都知事、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、橋本聖子会長、各位

◇命や暮らしを危険にさらしてまで東京五輪を開催するのか

感染が終息しない状況下で、本年 7 月に東京オリンピック・パラリンピックを安全に開催できると考えることは極めて難しいと言わざるをえません。この状況で開催すれば、アスリートが満足いくパフォーマンスを発揮することは不可能です。

たださえ深刻な不足に直面している医療資源を五輪に回すことは、コロナ禍で疲弊している医療従事者の方々にさらに苦しめ、住民および参加者の命と暮らしを危険にさらすこととなります。

◇人々の命や暮らしを守ることに資源を割くべき

五輪の延期にともなう追加費用は 3000 億円にも上りました (経費総額は 1 兆 6440 億円)。人々の命と暮らしを守ることが自治体の本義であるならば、東京五輪は一刻も早く開催中止を宣言し、窮乏にあえぐ人々に資源を割くべきではないでしょうか。

◇国内外から高まる五輪中止の声に耳を傾けて

すでに国内外での新聞等による各種世論調査では、五輪開催の中止または延期を求める声が高まっています。また、国内外のメディア、多くの政治家たち、またアスリート自身も五輪開催を難しいとするとの意見を発表してきました。

政府や都がいまだに五輪中止の判断や要請をしていないことはあまりに遅い失策ですが、今からでも今夏開催中止を即刻決断し、五輪中止によって利用可能になった各資源を、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぎ、人々の命と暮らしを守るために向けることを強く求めます。

氏名	住所

取り扱い団体：市民連合おおたの会